



平成 13 年 8 月 10 日

各 位

平成 14 年 3 月期 第 1 四半期 業績等の概況

上場会社名 メ ッ ク 株 式 会 社
(コード番号: 4 9 7 1 大証 NJ スタンダード)
本社所在地 兵庫県尼崎市昭和通 3 丁目 9 5 番地
問合せ先 社長室長 坂本 佳宏
TEL 06 - 6414 - 3451

1. 業績

(1) 平成 14 年 3 月期 第 1 四半期(平成 13 年 4 月 1 日から平成 13 年 6 月 30 日)の業績

(百万円未満切捨て)

	平成 14 年 3 月期 第 1 四半期 (当四半期)	参考 前期(通期)
売上高	1,322 百万円	6,483 百万円
営業利益	78	1,102
経常利益	75	1,096

(注) 1. 記載金額は、平成 14 年 3 月期の第 1 四半期の連結業績であり、単体の業績につきましては、「4. その他 第 1 四半期の単体業績」に記載しております。

2. 当社は、前期において第 1 四半期の業績を開示していないため、前年との対比は行っておりません。

(2) 部門別の連結売上高内訳

(百万円未満切捨て)

	平成 14 年 3 月期 第 1 四半期 (当四半期)		参考 前期(通期)	
	金額	構成比	金額	構成比
電子基板用薬品	1,074 百万円	81.2 %	5,067 百万円	78.2 %
電子基板用機械	159	12.1	987	15.2
電子基板用資材	78	5.9	333	5.1
その他	9	0.7	94	1.5
合計	1,322	100.0	6,483	100.0



(3) 主な資産・負債の変動について

(百万円未満切捨て)

項目	平成14年3月期 第1四半期	増減額	前期末
(資産)	百万円	百万円	百万円
現金及び預金	1,308	△394	1,703
受取手形及び売掛金	2,187	△335	2,523
(負債)			
支払手形及び買掛金	744	△155	899
未払法人税等	21	△193	215
賞与引当金	180	81	99
流動負債「その他」	99	△175	274

- (注) 1. 項目ごとの変動額が、総資産額の1%を超えるものを記載しております。
 2. 当四半期に係る数値について、公認会計士または監査法人の監査を受けておりません。

2. 業績の概要

当社の薬品は、携帯電話やパソコン等の情報通信機器をはじめ、デジタル家電やクルマ、医療検査器具など全てのエレクトロニクス機器に用いられる電子基板製造工程に使用されております。

平成14年3月期の第1四半期の当社グループを取巻く環境は、日欧米ともに景気後退がより鮮明となり、個人消費の低迷、設備投資の抑制など厳しさが、より一層増しております。電子基板業界は、情報通信機器の低迷を受け、世界的に需要が伸び悩みました。

このような状況下で当社は世界規模の競争力を強化するため新製品開発に注力し、6月に開催された日本プリント回路工業会主催のJPCAショーにおいて多層電子基板製造に用いられる新製品を3種類発表いたしました。また、経営基盤をより強化にするため社外の有識者から色々の意見を聞くためのアドバイザリー・ボードを設置いたしました。

当社グループの第1四半期連結決算の概要は以下の通りであります。

(1) 売上高

第1四半期の売上高は、13億22百万円となりました。

当社グループは顧客の技術サービスを中心に営業活動を積極的に行いました。しかしながら電子基板生産量は、情報通信機器を始めとするエレクトロニクス機器の世界的な低迷により減少しております。そのため電子基板用薬品の売上高は10億74百万円と低調な売上となりました。高密度電子基板に高い実績がある銅表面超粗化剤のCZシリーズを含む銅表面処理剤が5億91百万円となりました。その他、銅表面を有機皮膜で保護する防錆剤は1億37百万円、銅表面をはんだで保護する際に用いるフラックス剤が2億30百万円、はんだだけを溶解除去するメタルレジスト剥離剤が81百万円でありました。



電子基板用機械の売上高は、1 億 59 百万円と設備投資低迷の影響を受けるかたちとなりました。

(2) 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は 6 億 27 百万円となりました。これは新製品開発と海外子会社の営業力を強化するため、人件費が増加したためであります。

(3) 営業利益及び経常利益

以上の結果、営業利益は 78 百万円で経常利益は 75 百万円となりました。

3. 当期の見通し

電子基板はエレクトロニクス機器の重要な部品で、中長期的に大きな成長が期待できます。しかしながら、平成 14 年 3 月期に関しては、携帯電話やパソコンなどの情報通信機器の世界的な低迷から個人消費や設備投資などの停滞が続き、今期における回復は厳しい状態となっております。そのため電子基板生産量の回復は来期になるものと予想しております。

当社グループは現在の厳しい環境の中でこそ、より一層の競争力を強化する機会であると捉えており、第二研究棟が完成することによる新製品開発力の強化を推進し、グローバル体制の再構築を早急に行います。

以上の状況を踏まえ、現時点における平成 14 年 3 月期の業績見通しを 5 月時予想より修正し、以下の通りといたしました。

(連結)

	平成 14 年 3 月期の業績予想					
	修正予想		5 月時予想		差異	
	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期
売上高	2,616 百万円	5,970 百万円	3,239 百万円	7,080 百万円	△623 百万円	△1,110 百万円
経常利益	158	670	403	1,190	△245	△520
当期純利益	88	366	243	698	△155	△332

(単体)

	平成 14 年 3 月期の業績予想					
	修正予想		5 月時予想		差異	
	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期
売上高	2,017 百万円	4,813 百万円	2,484 百万円	5,516 百万円	△467 百万円	△703 百万円
経常利益	44	451	242	813	△198	△362
当期純利益	24	249	139	459	△115	△210

上記修正の理由は以下の通りであります。

売上高は、下期に入り売上高の回復は幾分見込まれるものの、第 2 四半期以降も厳しい環境が続くと予想され、当初予想を修正いたしました。

経常利益および当期純利益は、業務の効率化や経費削減に努めるものの上記理由により当初予想を修正いたしました。



4. その他

第1四半期の単体業績

(百万円未満切捨て)

	平成14年3月期 第1四半期 (当四半期)
売上高	986 百万円
営業利益	20
経常利益	4

以上